



## 月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

### 第 32 号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

### 〔目次〕

- ◎ 聖書からのメッセージ：「神を知ろうとしないので良くない思いに引き渡される」 エレミヤ
- ◎ 聖書と日本語「叩けよ、さらば開かれん」
- ◎ イエス・キリストに出会う「マタイとイエスの出会い」
- ◎ キリストを信じた体験談 「神様に助けられたこと」 by S
- ◎ 聖書を信じた有名人のことば： ロバート・イー・リー
- ◎ 聖書贈呈

### ＜聖書からのメッセージ＞

#### 「神を知ろうとしないので良くない思いに引き渡される」 by エレミヤ

本日は、「神を知ろうとしないので良くない思いに引き渡される」という題でメッセージしたいと思います。テキストは以下です。

ロマ1:28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。

1:29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、

良くない思いとは何かといえば、次の節に書かれているように、悪意、殺意、ねたみ、あざむきなどの類いの悪い思いです。

人の心はさまざま、世の中にはいろいろな人がいます。悪い心を持つ人もいます。心が悪く、些細なことで、他人をののしり、殴ったり、場合によっては、人を殺してしまう人さえいます。

それで、私たちは「何故あの人の性格はあんなに悪いのか？親のしつけが悪いのか、育った環境が悪いのか」と思うのです。

さて、このような私たちの疑問に関して、聖書は思いがけないことを語り、答えを与えます。すなわちこれらの心が悪い人々に関して、神が彼らを悪い思いに引き渡したので、彼ら自身でもこの悪い思いから抜け出せないことを語るのです。

このような聖書のことばは、私たちの持っている常識とは少し異なります。私たちの常識はどういうものか、というと、人が悪い考えを持つのは、その人自身の問題、責任である

## 「神を知ろうとしないので良くない思いに引き渡される」エレミヤ

というものです。自分で自分の心をコントロールできる、と私たちは思っているのです。それで、自分が気をつけて良い心を持つようにすれば、心はよくなる、と思っ

ています。しかし、この聖書の箇所によるならば、私たちが悪い思いに満ち、他人への怒り、ねたみ、殺意など悪い心に満ち溢れていくとするなら、それは、実は私たちの神への態度と関係があるのです。私たちが、私たち自身を造り、私たちの歩みも食べるものも、住む環境も用意してくださる神を決して認めようとせず、感謝することもせず、むしろ神など存在していないかのような歩みをするからなのです。神を我々が認めようとしないので、結果として私たち自身の心が悪い思いに引き渡され、そして、自分で改善しようにもその思いから抜け出すことは困難であることを語るのです。

繰り返します。もし、私たちが悪い思いに引き渡され、その思いから抜け出せず、悩んでいるなら、その原因は、聖書によるなら、私たちと神との関係にある、そう語られているのです。具体的には、私たちが神を知ろうとしないそのゆえに、神がそのような思いに引き渡した、神がそのような思いに我々が満ちることを許された、そう語られているのです。そして、私たちはこの神のことばは、正しいだろうと思っています。

再度書くようですが、私たちが悪い心や思いに悩まされるとき、そして心がどんどん道徳的に悪くなるように思えるとき、それは、神が私たちを悪い思いに引き渡されたからである、ことを聖書は語ります。そして、その理由として「彼らが神を知ろうとしないので」と書かれています。

そのようなわけで私たちは、このことを通して理解しなければなりません。一つは私たち人間は神によって造られたものである、と聖書は語っていること。そして、私達が神を離れ、神を認めず、感謝もせず、あたかも神

などこの世に存在していないかのような態度で歩いていくなら、そうするならろくなことが私たちの人生には起きてこない、ということです。私たちの思いも良いものとは決してならない、私たち自身も決して道徳的な歩みには入らない、ということです。その理由は私たちが、神を認めようとしないため、神の怒りを買うからです。

このことを人間にたとえて考えてみましょう。たとえば、私たちが就職活動を行い、就職難の中をいくつも会社を受け、やっとある会社に入れたとします。そして自分を採用してくれた会社の社長に朝会社で顔が会うとします。その時あろうことか、私たちが社長に挨拶もせず、顔も見ず、完全無視、シカトしたとします。しかもそれを毎日、毎月、毎年繰り返していたとします。社長はそんな私たちを見てどう思うのでしょうか。「あいつは良い社員だからもっと給料をあげてあげよう」なんて思うのでしょうか？いえ絶対にそうは思わないでしょう。逆に「あの社員はどうなっているのか？誰に雇ってもらったと思っているんだ？腹が立つから、あいつの給料を下げ、待遇も悪くしてやる、いずれ首にするぞ」なんて思うのがせきの山です。

人も自分を無視する相手に対してそんな態度に出ますが、神様だってそうでしょう。聖書によるならば、神は我々人間を造り、また食べる食物も水も自然も備えてあらゆる方法で私たちの生活を支えておられるのです。

その神に対して私たちが何の感謝もなく、神の存在を認めることさえもせず、完全無視を決め込むなら、神からの恵みはあまり、いや全然期待できないのです。逆に神の怒りのゆえに私たち自身の心が悪い思いに引き渡されてしまうのです。悪い思いとは具体的にどのようなものなのでしょうか？上記テキストの続きは以下の様に書かれています

**ロマ1:30** そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事を

## 「神を知ろうとしないので良くない思いに引き渡される」エレミヤ

たくらむ者、親に逆らう者、  
1:31 わきまのない者、約束を破る者、情  
け知らずの者、慈愛のない者です。

ここには神を離れ、無視した歩みをするとき、その人は決して道徳的に高められ、立派な心の人になるのではなく、逆にその人の心は道徳的に荒廃し、人をそしったり、悪事をたくらむようになる、ことが書かれています。これは本当でしょうか？私は本当だと思います。例をあげて見ましょう。

以前、日本で「浅間山荘事件」という事件が起きました。それは、連合赤軍という共産主義の団体の青年たちが長野の浅間山荘に立てこもり、その中で仲間同士で、憎しみあい、裏切り、訴えあい、最後にはリンチの末、何人もの仲間を殺してしまったという凄惨な事件でした。

集まった人々はみな、国立大学に通うような優秀なそして、社会改革の理想に燃えた青年でした。彼らは、自分の人生を賭けて共産主義の実現や社会改革による理想の世界を目指していたのです。純粋な若者が何人も集まったのに結果として起きたのはいわゆる内ゲバであり、何人もの仲間を憎しみで批判し、死に追いやることだったのです。

何故こんなことになったのでしょうか？このことを考えるに、共産主義とは無神論共産主義であり、この教えの基本は神を否定し、その存在を否定し、世の中の全ては物質のみであるという唯物論が基本であることを思い出すべきだ、と私には思えるのです。彼らはこの教えを受入れ、神を否定したゆえに逆に聖書のことばどおり、あらゆる悪い思いに引き渡されたように思えるのです。

彼らは共産主義すなわち神を抜きにした理想社会を追い求めたのですが、結果として起きたのは、上記みことば「また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、し

てはならないことをするようになりました。」ということばの成就だったのです。

彼らは神を否定して、結果として「よくない思い」へ引き渡され、仲間への猜疑心、ねたみ、怒り、殺意にあふれ、悲惨な仲間へのリンチ殺人を大量に行ったのです。そして彼らはこれらの恐るべき殺戮を正しいと信じて行ったのです。何故なら彼らは神によりそのような思いに「引き渡されて」いたからなのです。

ですので、どうぞ覚えてください。私たちの心が悪い思いに満ち、そこからどうしても抜け出せない、とするなら、それは、私たちが神を知ろうとしないために神によってそんな思いに引き渡されている可能性があるのです。しかし、もし、私たちがそのような思いに万一満ちていたとしてもそれでも、救いの道があり、脱出の道があります。私たちが神を認め、キリストを信じる時、神の霊が思いに満ち、それは平安や寛容をもたらすからです。以下の様に書かれています。

ガラテヤ5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、た。」と

神を信じ、神の霊（御霊）を心に受けるとき、その霊により、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実などの良い思い、心が私たちに起きてくることをこの箇所は述べているのです。そしてこのことばは真実です。

—以上—



浅間山荘事件

## 聖書と日本語「叩けよ、さらば開かれん」

聖書は日本人にとりあまりなじみがないものかもしれませんが、実は、そうでもないのです。私達の日ごろ使う言葉の中にも聖書の言葉がたくさん隠れているのです。「叩けよ、さらば開かれん」という言葉を聞いたことがある方は多いと思います。積極的に努力すれば必ず目的を達成することができるという意味の言葉です。もともとは、ひたすら神に祈り救いを求めれば神は必ず答えてくださる、という意味です。「求めよ、さらば与えられん」という言葉も用いられることもあります。これらの言葉は新約聖書マタイ7章でイエスが語られた言葉の一部です。イエスは、福音を教えられ、病に苦しむ多くの人々を癒されました。そこで大勢の群衆がイエスを求めて集まりました。マタイ7章では、イエスは押し寄せた群衆に向かい、山上で教えられたことが記されています。山上の垂訓とされています。

マタイ7：7～8 [求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。]

父なる神に求め続けるなら、たたき続けるなら、必ず開かれ、神様は答えてくださるとイエスは言われました。そしてさらにこのように続けられました。

マタイ7：9～11 [あなたがたも、自分の子がパンを下さいというときに、だれが石を与えるでしょう。また、子が魚を下さいというのに、だれが蛇をあたえるでしょう。してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い者をあたえることをしておるのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして求める者たちに良いものを下さないことがありましよう。]

人間は誰しも完全ではなく欠点や問題を持っていますが、自分の子供が食べ物を求めているのに、蛇や石ころを与える親はいないで

しょう、とイエスは言われます。確かに自分の大切な子どもにそんな酷いことはしません。むしろ子どもには、より良いものを与えたいと思うのが親心です。なおのこと、神様は人間の親以上であり、求めている人に良いものを下さるのだ、とイエスは言われました。

「天におられるあなたがたの父」とあります。天におられる神様は、私たちの父なのです。父なる神を信じる人々は神の子供となります。では、良いものとはなんのでしょうか。

このこと同じことが記されているルカ11章の13節に「とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありましよう。」とあります。良いものとは、聖霊のことを指しています。聖霊は神様の霊であり、助け手として私たちの内に住んでくださる方です。聖霊についてヨハネ14：26で「助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなた方にすべての事を教え、」とイエスは説明されています。聖霊は私たちの助け主なのです。そして私たちは聖霊により神からの知恵と力をいただくことができます。実は、私たちにとって最も良いものとは、神の霊である聖霊を与えられることなのです。全知全能の神様からの助けをいただくことができることほど素晴らしいことはありません。

懸命に神に求め、捜し、たたく人は、最も良い物として必ず神からの救い、助けである聖霊を与えられるのです。



叩けよ、さらば開かれん

## イエス・キリストに出会う「マタイとイエスの出会い」

イエス・キリストは2000年ほど前、イスラエルに救い主として来られました。その当時の人々はイエスと会い、自分の目で確かめることができました。そして今は聖書を通してイエス・キリストに出会うことができます。ここではイエスの弟子で、新約聖書マタイの福音書を記した使徒マタイとイエスとの出会いが記されています。

### ルカ5：27～32

この後、イエスは出て行き、収税所に座っているレビという取税人に目を留めて、「わたしについて来なさい」といわれた。

するとレビは、何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った。

そこでレビは、自分の家でイエスの為が大ぶるまいをしたが、取税人たちや、ほかに大ぜいの人たちが食卓に着いていた。

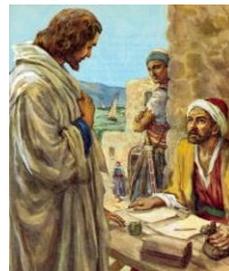
すると、パリサイ人やその他の律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって、つぶやいて言った。「なぜ、あなたがたは、取税人や罪びとともといっしょに飲み食いするのですか。」

そこで、イエスは答えて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」

ここでの取税人のレビとはイエスの12弟子の一人であるマタイのことです。レビは取税人でした。取税人は、イスラエルの支配するローマ帝国の為に税金を取る仕事をしていました。税金を多く取り私腹を肥やす者もあり、ユダヤ人の間では、忌み嫌われていました。収税所で税を徴収しているレビに、イエスは目を留められました。神の御子であるイエスはすべてのことを知っておられます。レビは人から忌み嫌われる取税人でしたが、イエスは彼の心のすべてをご存知でした。人は表面的なことで判断しますが、イエスはそうではありません。人の本質を見抜いておられます。第一サムエル16：7「人はうわべを見るが、主は心を見る。」とあります。神様は、外側だけでは決してわからない人の心の

中の本当の思いや悩みなどすべてご存じなのです。

レビの本当の姿を知るイエスは、彼を弟子にしたいと思われたのです。そして「わたしについて来なさい」と声をかけられました。するとレビは、「何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った」とあります。あつという間の決断です。彼は今までの生活をすべて捨て、何の未練もなく招いてくださったイエスの弟子になることを決めました。今までの問題のある悩み深い生活から自由になり、神の子供となる身分をいただいたのです。レビはイエスを家に招いて、罪人と嫌われている取税人の仲間たちも集め、祝宴を張りました。それを見たユダヤの指導者のパリサイ人や、律法学者たちが、「取税人のような罪人達と共に食事をしているなどとんでもない」とイエスのことを批判します。パリサイ人たちはユダヤの中で尊敬されており、自分たちも立派な人間だと思い高慢になっていました。イエスは彼らに対して「医者が必要なのは病人であり、健康な人ではない」と言います。自分には問題があり罪人だと自覚症状のある人たちを救い出すためにイエスは来てくださいました。実際の所、神様の前で、何の問題もない正しい人はこの地上に誰一人としていません。神の前には、すべての人が罪の重い病人であり、救い主イエスが必要なのです。しかし、自分たちは、正しい生き方をしていると高ぶるパリサイ人達には、罪という病の自覚症状がありませんでした。彼等はイエスを拒否しました。しかし罪の自覚症状があったレビはイエスに従いました。そして、神の働きをする使徒マタイとなっていくのです。



マタイに声をかけるイエス

## キリストを信じた体験談「神様に助けられたこと」 by S

今から約10年前のことです。当時、私は片道10kmほどの道のりを、自転車で通勤していました。ある日、仕事の帰りがけに、同僚と一緒に食事をすることにしました。同僚は原付のバイクを使用していたので、私は自転車で、同僚はバイクで、近くのファミリーレストランに向かいました。業務のことや互いのプライベートのこととかで話が弾み、そして、「さあ、明日も仕事だから、もう、そろそろ帰ろう」と言って、駐輪所で別れました。

そして、いざ帰ろうと思って自転車の鍵を解除しました。その時に気づいたことなのですが、思うように自転車が前に進みませんでした。「ここに来るまでは、なんとも無かったのにおかしい」と思い、タイヤの付近を見ってみました。すると、パンクはしていませんでしたが、空気が大分抜けている感じでした。あまりはっきり覚えてはいないのですが、一部に傷が付いていて、そのために、思ったように動かない感じでした。

「どうしよう？」と、一瞬、途方に暮れました。家まで運ぶには距離がありすぎるし、かと言って、どこかに置いて電車で帰

るのもなあと・・・どのみち、明日、なんとかしなければいけないし・・・自転車を押しながら、そんなことを考えていましたら、一軒の自転車屋さんが目に留まりました。でも、残念ながら、営業時間はとっくに終わっていて、シャッターは閉まっていました。当時、私は洗礼を受けたクリスチャンではありましたが、ただ、信仰生活とイエス様から離れていました。でも、その時に、こんな御言葉を思い出しました。

**“わたしは、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。”だれであっても、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。**

**(新約聖書[新改訳]:ルカの福音書11章9,10節)** ダメかも知れない、でも、ひよっとしたら、助けてもらえるかもしれないと、わずながらも、この御言葉に望みをおいて、自転車屋さんの自宅の玄関のインターホンを押してみました。一度目は、何の応答もありませんでした。「やっぱりダメだよね」と、思いながらも、「いや、もう一度」と思って、再度、押してみました。

## キリストを信じた体験談「神様に助けられたこと」 by S

すると、インターホン越しに、「はい」と、言う声があり、それに続いて、「もう、今日は、営業は終わっていますから」と、言われました。すかさず、「はい、分かっています。無理を承知の上で、お願いにあがりました。この近くで仕事をしている者ですが、自宅まで距離があって、困っているので助けて欲しいのです。よろしければお願いします」と言いました。しばらく間があったのですが、そこのご主人が出てきてくれました。はじめは若干、戸惑っていた感じでしたが、その後、すぐに対応して下さり、処置してくださいました。そのおかげで、無事に帰宅することができました。申し訳無かったなあ、でも、とても助かったので、「本当にありがとうございます」と言って、その日は帰り、翌日、気持ちばかりのお礼の品を受け取っていただきました。

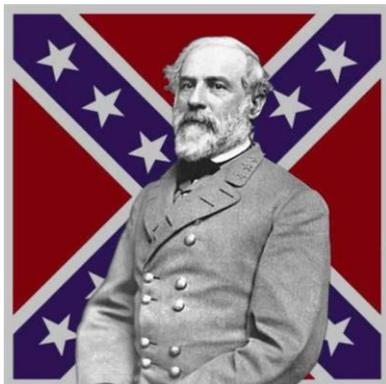
さっき言いましたように、その時は、信仰生活から離れていたのですが、神様が私に、御言葉を思い起こさせて下さって、助けてくださったのです。**「だれであっても、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます」**と書かれているように、神様が解決の道を私に開いてくださり、与

えてくださったのです。ではあっても、はじめは半信半疑でした。でも、「どんなことも、信仰をもって行うことが大事だ。御言葉を信じれば、きっとなんとかなる」と思って、そして踏み出してみて、本当に良かったなあと思いました。信仰生活からもイエス様からも離れていたそんな状態の私に、神さまは、この究極の時、助けの手を差し伸べてくださったのです。神さまの助けと憐れみ、このことを思い出すと、今でも、ジーンときます。そのことがきっかけではなかったのですが、それから約3年後、私はクリスチャンとしての歩みを再開することができました。その時も、神さまの一方的な憐れみと愛によって、イエス様と信仰生活に立ち返らせていただくことができたのです。そのような偉大な唯一の真の神様を、これからも、ひたすら見上げて、神様が喜んでくださることを行っていけたらなあと思います。



聖書に関する有名人の事ば：

ロバート・イー・リー 南北戦争時の南軍の将軍



「私の全ての当惑や、苦悩において聖書はいつでも私に光や力を与えてくれた。」

#### <お知らせコーナー>

##### ●聖書贈呈プレゼント！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:

##### ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

見本

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com



##### ★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoj.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>